

## 知床世界自然遺産地域年次報告書の文章案について

平成 23 年度版年次報告書より新たに加わり、委員に執筆を分担していただく「Ⅲ. 知床世界自然遺産地域の生態系と生物多様性の現況と評価」について文章イメージを提示する。

### 記入していただきたい要素

最近の調査結果からの生態系についての「事実」や「推定」  
現在の状況や状態、生態系由来と人間活動由来も含めた「変動」  
生態系への攪乱などの「危機」や重要課題

### 【文章イメージ】

#### 1. 陸上生態系

遺産地域の動物相は、サハリンから渡ってきた北方由来の種と、本州から渡ってきた南方由来の種とが共存しているため多様性に富んでいる。陸上生態系については現在も高いレベルで維持されており、〇〇年の調査では陸上哺乳類は36種の生息が知床半島で確認されている。また植物についても全域で原生的な状態が維持されている。特に、ハイマツ低木林や高山植物群落は保全されている。しかしエゾシカの食害によって〇〇は甚大な被害を受けており、対策が必要である。なお、昨年度の調査において〇〇〇であることが明らかになった…。

#### (1) ヒグマ

ヒグマの個体群は高いレベルで維持されている。〇〇年の△△での調査では、推定●●個体のヒグマが生息していると考えられ、今後もヒグマ個体のモニタリングが重要である。

#### (2) 希少猛禽類

〇〇年の調査では鳥類は275種が知床半島で記録されている。遺産地域内では、これまで学術上貴重な天然記念物に指定されているシマフクロウ、オジロワシ及びクマゲラの繁殖やオオワシの越冬が確認されている。遺産地域は、シマフクロウにとっては道内で繁殖するつがいの約半数が生息している最も重要な繁殖地であり、□□年の△△調査において■つがいが確認されている。オオワシは〇〇年の◇◇調査によると遺産地域での越冬個体数が約△羽であり、最も重要な越冬地となっている。オオワシ、オジロワシの鉛中毒死が問題となっており、エゾシカ猟における鉛弾の使用禁止を徹底する…。

今後も引き続き生息数や越冬個体数のモニタリングが必要である…。

### (3) 高山植物

植物相は北方系と南方系の植物が混在して豊かである。陸上の維管束植物としては、高山植物に北方系の種が多いことに加え、南方系の種も見られることから、多様な植物相が形成されている。〇〇年の調査によると知床半島の陸上の維管束植物相は107科872種からなり、そのうち4分の1を上回る233種が高山植物となっている。

△△年の調査によると■■においてシレットコスミレに対するエゾシカの採食痕が確認されており、エゾシカの高山帯への侵出が近年になって徐々に進行してきている。

## 2. 河川生態系

遺産地域の河川では、サケ科魚類が著しく優占していることが重要な特徴である。大量に遡上するシロザケ、カラフトマス等は、ヒグマやシマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの食物連鎖の頂点に位置する大型哺乳類、猛禽類の重要な餌資源にもなっており、海起源の物質を陸上生態系へ運び、その生産力と生物多様性を高めている…。

〇〇年は▲▲川においてカラフトマス及びシロザケの遡上状況調査を実施しており、産卵床数が□□%増加していることが明らかになった。河川工作物の改良による効果と考えられるが、今後もモニタリングを継続していく必要がある…。

## 3. 海洋生態系

知床周辺海域は、流氷下のアイスアルジーや、流氷形成時の鉛直混合により作られる栄養塩の豊かな中層水がもたらす植物プランクトンの大増殖を基礎とした大きな生物生産力を持ち、これに依存する形で豊富な魚類や海棲哺乳類、鳥類等が生息している。△△年の調査では海水魚類は261種が知床半島及び知床半島沿岸海域で確認されている。

●●年には遺産地域の海岸部及び海域において約□□人が観光・レジャー目的の船舶や水上バイク、シーカヤックの利用、釣りなどをしており、海鳥や海棲哺乳類に悪影響を与えることも懸念される。また△△年の調査によると遺産地域に來遊するトドの個体数は約〇〇頭であり、回遊経路について今後調査を進めていく。